

学図研東京支部 2020 年度活動報告

2021 年 6 月 27 日

【支部会】

今年度は新型コロナウイルスの影響で、学図研東京支部では、すべての支部会が、前年度に引き続いて鳴川浩子さん、歌川美歌さんの協力の下、Webex を利用したオンライン開催となった。

2020 年 6 月の支部会で前年度の総会を行い、活動報告と活動方針が確認され、支部代表、全国委員、支部ニュース編集担当の一部、ホームページ担当が交替した。

7 月は年間の活動方針と計画を立て、8 月の支部会は、例年通り実施なしとした。

9 月は、東京学芸大学附属学校司書部会・都立高等学校司書会との共催で「学校図書館と著作権」の学習会をオンラインにて開催した。著作権法改正に係るパブリックコメントの締め切りが迫る中、著作権第 31 条、第 35 条、第 37 条と学校図書館の関係について、日本図書館協会の小池信彦氏、国立国会図書館の南亮一氏、大学教授の野口武悟氏、小野永貴氏、宮武久佳氏、鎌田和宏氏、東京学芸大学図書館の高橋菜奈子氏、学校現場の声として、お茶の水女子大附属中学校教諭の渡辺光輝氏、元・音楽科教諭で著作権教育をテーマに発信されている原口直氏、長野県小学校司書の宮澤優子氏、当支部会員の千田つばささんなど、多くの専門家と学校図書館関係者の発言を聞いて、著作権第 31 条に学校図書館を加えることについての考え方や著作権教育の重要性について、認識を新たにすることができた。

10 月は「海外 SF 小説持ち寄り」をテーマに情報交換を行った。

11 月はポプラ社の齋木小太郎氏を講師に迎えて「ポプラディアネット学習会」を行った。参加者を児童生徒に見立てて、ガイダンス、レクチャーをしていただいた。ポプラディアネットのしくみや紙の本との違いを、クイズを解きながら知り、デジタルは指導者側が「まずは使ってみる」ことが大事であると認識した。

12 月は宅間由美子さんに「司書目線の新聞活用術」をテーマにお話を伺った。授業と連携した様々な仕掛けやコーナーづくりの工夫など宅間さんの実践から学び、大いにヒントを得ることができた。

1 月は有山裕美子さんに「モリス＝センダックの魅力」をテーマにお話しいただき、有山さんのセンダックコレクションの数々を画面に映していただけただけのは、オンラインならではのことだった。

2 月は、東京学芸大学附属学校司書部会・都立学校司書会と共催で「読めるのに読まないイマドキの若者たちを考える」をテーマに学習会を行った。講師は埼玉支部の木下通子氏と自由の森学園の大江輝氏。司会の村上恭子さん、慶應義塾大学非常勤講師の汐崎順子氏も加わってイマドキの若者の実態と学校図書館の役割、司書のあり方について示唆に富む学習会となった。

3 月は「電子図書館導入校の今」をテーマに 9 校の学校図書館へのアンケート結果をもとに、利用している電子図書館システムの特徴や使い勝手、学校図書館として学校にどのように導入を提案したか、導入後の利用状況や変化などについて、導入した 5 名の会員の話をもとに情報交換した。

4 月は昨年より延期されていた学図研全国大会、8 月の大会開催がオンラインと決定したことを受けて、改めて分科会「もっと読もうよ！海外文学」の流れと内容、時間配分、方法などについて検討と確認を行った。

5 月は、「私たちの課題」について、読み合わせをし、話し合いを行った。

2020 年度、コロナ禍で始めたオンライン支部会は、当初はリアルとの違いにもどかしさや戸惑いもあ

ったが、移動に時間がかからず、どこからでも参加できるということから、参加者は前年度より増加した。2021 年 5 月には鳴川浩子さんの協力を得て、図書館報（PDF）交換用のドライブ上にアップするフォルダを開設することができた。

6 月の総会では ZOOM 開催の全国大会を意識して、谷口裕美子さんの協力の下 ZOOM を利用する運びとなった。

【全国大会】

全国大会は新型コロナウイルス感染症の影響で 2021 年 8 月に延期された。

分科会は前回の続編として「もっと読もうよ！海外文学」とした。海外文学を届ける対象を YA から小学校中学年まで広げての実践を柱とし、近藤君子さん・大澤倫子さんの講演と参加者がグループ交流する企画の準備を進めた。

【役員体制】

支部ニュースは、歌川美歌編集長を中心に、田中美智子さん、岩本侑子さん、前田紀子さんの 3 名の副編集長のもと、月 1 回発行され、毎回大変充実した内容となった。月例支部会の報告、輪番を基本とした会員の執筆原稿が発信され、会員の動静を知る重要なものとなっている。

会計は谷口裕美子さん、印刷発送・メーリングリスト担当は佐々木愛さん、HP は清水紀子さん、会計監査は豊泉聡美さん、支部代表は佐藤敏子が担当した。

全国事務局次長（HP 担当）は青野由美さん、全国事務局次長（渉外担当）は鳴川浩子さん、全国委員は千田つばささんが担当した。

【その他】

「東京・学校図書館スタンプラリー」は新型コロナウイルス感染症のため学校図書館公開のイベントを中止し、「おすすめ本小冊子」のホームページでの公開、図書館総合展への出展など、規模を縮小して開催した。

他団体との連携としては「東京の図書館をもっとよくする会」の世話人として菊池保夫さんを派遣した。また、「学校図書館を考える全国連絡会」での調査を引き継ぐ準備を進めた。

（文責 佐藤敏子）